

令和5年度の教育活動等に対する学校評価書

令和6年4月1日

学校法人沼津音羽学園沼津あすなろ幼稚園 園長 高村 克彦

同学校関係者評価委員会 委員長 佐藤 春菜

- 沼津あすなろ幼稚園の教育目標 心の古里を作ろう
- 本年度の重点目標 ○自然に親しむ子 ○創造性豊かな子 ○思いやりのある子 ○たくましさのある子
「やさしい心を育て、遊びの中で力をつけよう」
- 自己評価に対する学校関係者評価

※評価は、A（十分に成果が上がった）、B（成果があった）、C（少し成果があった）、D（成果がなかった）で表す

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
自然に親しむ子	園内の自然環境に進んでふれさせる	B	○春はテントウムシ探し、夏はセミの抜け殻探し、冬は氷や霜柱を見つけて遊んだ。 ○保育者が子どもと一緒に虫に触れ、苦手な子どもたちは安心させながら触れさせると、「かわいいね」等のつぶやきがあり、笑顔を見ることができた。 ○園内を散歩しながら、植えてある野菜を観察したり、霜柱に触れたりして、感じたことを言葉で伝え合うことができた。 ○花壇で育てたオクラやチューリップの水やりを通して、生長の様子を一緒に味わった。	A	
	季節に応じた保育を通して自然の様子や変化に気付かせる	B	○バスの中で富士山の季節の移り変わりを見て、会話を楽しんだ。 ○保育室前の花壇や夏のオクラ・ヒヤシンスには目が向けられ、変化を楽しんだ。 ○花の芽が出る様子を見たり、霜柱に触れたり、水の心地よさを感じることができた。また、雨音にも耳を傾かせ、自然とかわることができた。 ○各自の鉢植えの植物や花壇の様子を見ることにより、季節によって咲く花などが違うことを発見していた。 ▲和義先生、小林さんが世話をしてくださっている遊具付近の植物が、気づきにくいものになってしまった。もう少し気づかせたかった。	B	野菜や花の絵の札があると、もっと興味をもつことができると思われる。
	子どもが見付けた自然の様子を保育に生かす	B	○霜柱を手にとって冷たさを感じたり、拾って置いておいたものを後で見たりした。「とけちゃった！氷みたい」と気づくことができた。 ○子どもが園庭で見つけ拾ってきた木の実や枝をクラス全員で探したり、図鑑で確かめ調べてみたりした。 ○子どもたちが収穫できそうな野菜を見つけ、収穫し、食べるまで一緒に行った。 ○どんぐりすくいゲームや霜柱見つけゲームなど、季節にかかわる遊びを取り入れられた。	B	
	自然を生かした遊びを活動に取り入れる	B	○どんぐりケーキを作ったときはどんぐりの大きさや形の違いに気づいたり、色水遊びでは水の色が変わる瞬間に驚いたりしていた。 ○落ち葉にひもを付けて凧にして、空高くとぶようにたくさん走り回る姿が見られた。 ○どこに木の実が落ちているか「探しっこ」をしたり、氷がはっている場所を見つけに行ったりした。 ▲秋以外においても、製作に限らず、もっと活動に取り入れたい。	B	アサガオ等の花を活用して、色水や押し花に取り組むことも楽しいと考えられる。
創造性豊かな子	運動会・発表会等の取り組みの中で個々の特性を見付け伸ばす	B	○生活発表会の練習をしているとき、がんばっていることや上手にできたことを周りの友達の前でほめることで、さらに意欲をもてるようにした。 ○たくさんほめたことで、やってみよう、がんばろう、とする姿が見られた。 ○一人一人に、自信をつけることができた。 ○オペレッタまたは体操で、得意分野を選択した。 ○各クラスや学年発表の中で、個々が取り組めるようにしていよいよかかわって接するようになった。	A	
	子どもの発想を尊重したり引き出したりする保育をする	B	○その時興味をもっていることに対して、会話をしたり、遊びに取り入れれたりして、より興味を引き出すことができた。 ○壁面作りで、子どもたちが気に入っている絵本から製作を行うことで、より絵本に親しませることができた。 ○一対一の会話の時には、発想を大切にできた。ただ、全体の中ではむずかしかった。 ▲気になる子どもにかかわる時間をもう少しとりたかった。	B	

	言葉の発達や言葉への関心を高めるような保育や環境作りをする	A	<p>○月刊本の中で、友達同士の声のかけ方を学んだり、ひらがなを読んだりする機会を多くした。</p> <p>○絵本を通して言葉の繰り返しを楽しんだり、読み終わった後に子どもが答えやすいような質問をしたりして、言葉に関して自然な成長を心がけた。</p> <p>○月刊絵本のシール貼りのとき、ただ貼るのではなく、ストーリーを考えて貼って見せると、子どもたちも自分ストーリーを話しながら貼る姿が見られた。</p> <p>○ことば遊びや文字にふれる機会を多く作った。</p>	A	
	五感を使って遊んだり、ものを作ったり描いたりする楽しさをたくさん味わわせる	B	<p>○壁面製作や製作帳、行事での作りにおいて、様々な技法やのり、はさみ、絵の具などを用いて、作成できるよう構成を考えた。</p> <p>○壁面製作のとき絵の具を利用し、様々な技法を活用することを楽しみ、自分の作品に対して愛着をもてたようだ。</p> <p>○園庭を散歩し、花のにおいをかいだり、土や水に触れ、その感触を楽しんだりした。雨の音を聞きながら、雨にちなんだ歌を歌って楽しんだ。</p> <p>▲後半の製作が同じようなことばかりになってしまい、素材など工夫すればよかった。</p>	C	以前に実施していたボディペインティングを復活させてほしい。
	体の動きや音楽的な表現を楽しむ機会や遊びを大切にする	B	<p>○運動会や生活発表会の曲を行事が終わってからも流し、子どもたちが表現遊びを楽しめるようにした。</p> <p>○運動会、生活発表会の遊戯曲を昼食時に聞かせた。また、すき間時間に運動会の曲をかけ、友達同士で楽しく踊った。</p> <p>○ピアノの音で動物になりきったり、洗濯機になったりと、全身を使った表現ができた。</p> <p>○子どもたちが気に入ったダンスを利用し、全身を動かす機会を多くもった。</p>	A	踊ることに関しては、十分なレベルに達している。
思いやりのある子	動物グループの活動を効果的に進める	B	<p>○グループの子どもたちの集まりにおいて、始まった頃は保育者の指示等で活動することが多かったが、少しずつ年長児中心に活動できるように、見守ることを多くしていった。</p> <p>○年長児にリーダーという意識をもたせ、グループ内がまとまるよう指導した。</p> <p>○きょうだい、担任以外の友達、保育者と安心して過ごすことができていた。</p> <p>○コロナが落ち着き、昨年度に比べて、よりかかわりを深めることができた。</p>	B	運動会で、動物グループの種目を復活させてほしい。
	自由遊びの時間を通して、子ども同士がふれ合えるようにする	B	<p>○保育者が一緒に遊び、子どもたちの様子を見ながら、その時々でふさわしい言葉かけを試みた。</p> <p>○好きな遊びを通して、誰でも仲よく遊べるよう、中に入って遊びが広がるよう助けを行った。</p> <p>○きょうだい関係、バス関係を中心に、他学年の友達とのかかわりが広がり、関係が深まった。</p> <p>○年長・年中児が年少児をクラスまで送っていったり、製作を手伝うなどしたりして、交流することができた。</p>	B	園長、担任以外の職員と、もっと遊びたいという子どもの願がある。
	学年の枠にとらわれない保育を意図的に取り入れる	B	<p>○朝、リレーを一緒にしたり、なわとびを年長児に教えてもらったりした。もっと取り組みたい。</p> <p>○運動会、発表会の演技等を見させてもらう時間を作った。すると、年長中児の自然な日常生活は自分たちよりりっぱなことに刺激を受け、尊敬の気持ちをもったようだ。</p> <p>○年長中児の行っている遊びに関して「やってみよう」という言葉が出れば、仲間に入れてもらったり、クラスでも取り入れたたりした。</p>	A	
	子どもが絵本好きになるように、時間を確保したり環境を整えたりする	B	<p>○子どもたちが好きな絵本を選んで読む時間を設けるようにした。</p> <p>○帰りの支度が早く終わったときは、クラスにある本を必ず読むようにした。すると、子どもたちから「これ、もう1回読んで!」「今日はこれ!」と、リクエストが上がるようになった。</p> <p>○自分が好んだ絵本を読み聞かせた。読んだ絵本を黒板の所に何日間か置いておくと、「見てもいい?」と興味をもち、実際に見ている子どもが多かった。</p> <p>▲絵本の時間が、なかなか設けられなかった。</p>	B	外部による読み聞かせを取り入れることも、子どもの意識を高める上でよいかもしれない。
	協力や助け合いを引き出すような学級運営を心がける	A	<p>○困っている子がいたら助けるよう促すなどして、助けるやさしさを引き出すことができたと思う。</p> <p>○リーダーシップのとれる子中心のクラス運営にせず、全員が協力したり、クラスの一員として力を発揮できたりする場を大切にしたい。</p> <p>○1学期から子ども同士のトラブルが多く、子どもたち一人一人に目を向けることができなかったため、トラブル解決を丁寧に行い、相手がどう思うかを考えさせることで、クラスにまとまりができてきた。</p> <p>○相手の気持ちを考える機会を多く設けたり、話し合いの場を作ったりした。</p>	A	
たくましさのある子	遊びの中でも体力や体の動かし方が身に付くように配慮する	B	<p>○年少児なので、走ることを重視し、リレー、転がしドッジボール、追いかけてこ等、子どもたちが楽しみながら、体力や動かし方を身につけるようにした。</p> <p>○総合遊具のロッククライミングや鉄棒でのぶたの丸焼き、ふとんは、保育者や</p>	B	

		できる友達の様子を集中して見させた。そして、援助し、何度もやることで、物怖じせずできるようになった。 ▲運動が苦手な子への対応をもっと考えて、かかわっていききたい。		
カードを利用するなどして、目標をもちやすくしたり、自ら運動しようとする意欲を高めたりする	B	○自分の現段階の力がカードを通してみられるため、意欲を引き出した。 ○目標が明確になることで、努力する姿が多く見られた。 ○成果が見えることにより、励みになっていた。 ○運動カードの達成がむずかしい子は、なわとびカードに自ら挑戦する姿も見られた。	A	なわとびカードは、小学校のなわとびの期間と重なるので、とてもよい。
いろいろな運動遊びを紹介する	B	○2学期から、鉄棒、登り棒等をクラス全体で始めたが、年長中児ががんばっている姿を目にしていたので、意欲的に取り組むことができた。 ○子どもと一緒になわとびや手わり、竹馬などをやることで、子どもたちも興味をもってくれた。 ○他学年が行っている運動遊びを紹介したり、取り入れられたりできた。 ▲転がしドッジボールは興味があるようで、一人が声をかければ、みんなが賛同して行うことができたが、もっといろいろな遊びを紹介したかった。	B	
食に関心をもたせ、マナーやバランスのよい食事にも配慮する	B	○苦手な野菜があるときは、園内で育てている野菜を見たり、よい姿勢で食べられるよう常に声をかけたり、「おいしいね！」の言葉を伝え合った。 ○マナーについての話をし、はしの持ち方や姿勢がよくなったと思う。 ○偏食の子が多く大変だったが、保育者とやりとりをしながら、ほんの一口でも食べられたらほめて、食事の時間も12:35には終わりにした。すると、主食は食べられるようになり、一口食べたことに自信をもてた。 ▲食に対して興味のない子は途中で飽きてしまい、マナーについて注意されることが多かった。	B	子どもたちが育てた野菜や、園庭で育てている野菜をみんなで食する機会がほしい。
友達が少ない子や、孤立しがちな子の支援を心がける	B	○友達という時間と一人で遊びたい時間がある子を見極めるよう心がけた。 ○共通の遊びを通して、遊びが広がるよう仲介した。 ○明るく友達思いの子が多いため、自然と輪が広がっていた。同じ役割をお願いするなど、一緒にがんばる経験をし、仲良くなれたこともあった。 ○グループ等を配慮したり、一緒に遊ぶ機会を作ったりした。	B	先生に対して相談することを遠慮してしまう子もいるので、そのような子には特に配慮をお願いしたい。
継続して運動に取り組むような工夫をする	B	○一人一人と具体的な目標を立てて、一緒に取り組めた。 ○子どもたちの好きなダンスをかけて身体を動かすようにした。朝の体操や追いかけっこなど、遊びにおいても運動を取り入れた。 ○朝の体操終了後、鉄棒等に積極的に取り組むようにした。苦手な子どもはできるところまでまでがんばるようにし、できたことはほめて、意欲を失わないようにしてきた。 ▲朝の体操の後、時間があれば鉄棒やロッククライミングに取り組んだが、なかなか継続してはできなかった。	A	十分に取り組んでいてくれる。
令和6年度に向けての改善策			上記以外の意見(抜粋)	
<p>☆本年度は、新型コロナウイルス対応が緩和された中で、活動にのぞむことができたのは何よりであった。コロナ禍において活動のあり方を検討したことを受けて、従来通りに実施した活動、内容を変更した活動、廃止とした活動とあったが、的確な判断だったと思われる。よって、活動のあり方については、本年度の方針を基本的に継続していく。</p> <p>☆昨年度、全国的に問題となった通園バスに関する業務、保育における子どもたちへのかかわり方については、確認、徹底してきたことを忘れずに、今後も気を引き締めてのぞんでいく。</p> <p>☆本園の子どもたちのよいあらわれで、やさしい心をもっている子、話をしっかり聞ける子、が多いことがある。このことについては、よい伝統としていきたいため、指導の継続、向上を図っていく。</p> <p>☆子どもたちや保護者とのかかわりにおいて、「人権感覚」「平等性」「統一性」を常に意識して、過ごすようにしていきたい。</p> <p>☆昨年度に続いて、重点目標を「やさしい心を育て、遊びの中で力をつけよう」として、取り組んできた。この目標については、次年度も継続していく。特に、遊びの中でつける力を明確化していきたい。</p> <p>☆次年度は、園児数の大幅な減少により、クラス数が減る。それにとまって、職員数も減ることになり、一人一人の業務量の増加が懸念される。職員の業務の精選化、効率化を図っていきたい。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・本園の子どもたちは、広い園庭で思いきり遊んで四季を感じ、動物グループの活動を通して思いやりややさしさを身につけていると思う。 ・全ての職員が、クラスや学年を問わず、ほとんどの園児の氏名や性格を把握し、あたたかく見守ってくれていて、とてもありがたい。 ・おたより、通知に関して、次月の予定はもっと早く、また、持ち物についてはまとめて表記する等、出し方を改善できたらよい。 	